令和３年度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立浦和高等学校　定時制課程 ）

目指す学校像	社会的自立を目指し、未来を拓く誠実な青年を育成する

重 点 目 標	1 生徒個々に対応した分かりやすい授業を展開し、進学に向けた発展的な学習を組織的に取り組む。 2 キャリア教育・進路指導を組織的に行うとともに、外部教育機関と連携し、生徒の進路意識を向上させる。 3 定時制の生徒に合致した「主体的・対話的で深い学び」による授業を通じ、能動的な学びを身につけさせ、生きる力を育む。 4 組織的かつ計画的に、日々の教育活動を発信し、地域に開かれた学校づくりを進める。

※ 重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成　（８割以上）
	B	概ね達成　（６割以上）
	C	変化の兆し　（４割以上）
	D	不 十 分　（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえた評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	３名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

学　校　自　己　評　価

年　度　目　標

番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	・中学校を不登校だった生徒が多く在籍しており、義務教育の学習内容が十分に身についていない生徒が多く見られる。そのような状態で高校の教育を学ぶには、生徒個々に対応した分かりやすい授業を展開し、学びなおしを含めた基礎学力の向上が必要といえる。	・生徒個々への学習指導体制の充実と学校生活に自信や目標を持った生徒の育成を目指す。	①生徒理解に務め、分かりやすい授業になるよう授業の改善を行う。 ②学習サポーターと連携し授業支援を有効的に実施する。 ③ICTを利用して授業を支援、補助する動画を作成し、YouTubeにアップする。 ④多様な文化を持つ生徒への対応のため多文化共生推進員やICTを活用する。	①７割以上の生徒が「授業が分かりやすい」と回答。 ②各授業に於いて個々に応じた工夫を実践する。 ③各教科毎学期１本以上授業支援、補助動画を作成する。 ④始業前に年間45回の日本語勉強会を実施。オンライン教育（33回）も併用する。
2	・様々な理由により生徒の進路に対する意識は低く、将来の夢ややりたいことを見つけられない状況にある。生徒の進学・就職支援を充実して、進路意識の向上を図り、将来の夢や具体的な目標を持たせ、進路実現につなげることが昨年度から継続した課題となる。	・４年間を通して系統的なキャリア教育・進路行事等を組織的におこない、各種の学校行事との円滑で効率的な連携を目指す。	①かわぐちサポステとの連携により、進路講演会・SST（ソーシャルスキルトレーニング）・社会体験活動や短期間の職業体験（インターンシップ）の機会を設定する。 ②NPO法人等の外部教育力を活用したキャリア教育を推進する。 ③自発的な取組ができるよう、「浦定チャレンジ」を推進する。 ④卒業生による進路講演会を実施する。	①８割以上の生徒が「コミュニケーション能力が上がった」と回答。 ②生徒の進路決定率とアンケートの結果。 ③８割以上の生徒が「自発的に取組を行えた」と回答。 ④７割以上の生徒が「進路意識が向上した」と回答。
3	・基礎学力の定着と、身に付けた学力をどのように活用するのかが本校の課題である。生徒個々の学力や、理解の深まり方も差が大きい。生徒の心理的問題や複雑な家庭環境に対応するため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携が必要である。	・主体的・対話的で深い学びによる知識の定着を達成でき、基礎学力や発展的学習が深まった生徒の育成を目指す。	①「主体的・対話的で深い学び」による授業を実施する。 ②未来を拓く「学び」プロジェクトによる、他校及び中学校教員への授業公開を実施する。 ③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し教員向け研修会を実施する。また生徒、保護者との個別相談を充実させる。	①全教員が授業において、「主体的・対話的で深い学び」を各学期に１回以上実施。 ②公開授業により、他校教員及び中学校教員の参加者を増やす。 ③専門職のアドバイスを参考にして、より一層分かりやすい授業を展開する。
4	・保護者会への参加希望数は多いが、一昨年の参加率は半分程度である。今後も保護者が参加しやすい時期や魅力的な内容を検討していくことが必要である。コロナ対応で保護者会が実施出来ない場合は当日の資料を、生徒をとおして配布する等の工夫が必要である。	・学校ＨＰを活用し、情報発信を積極的に行い、生徒保護者や中学校との連携を強化する。	①公開行事等において、保護者の参加を促し、日常の教育活動への理解を強化する。 ②給食委員会が主導して「食育」を充実させる。また、食の大切さ、命の重さの指導をする。 ③保護者対象のアンケートを実施する。 ④学校ＨＰの定期的な更新と内容の改善を行う。	①保護者会参加者が、前回実施の一昨年度を上回る。 ②給食喫食率９割以上、アンケートによる給食満足度を８割以上。 ③保護者会参加者アンケートにて、肯定的意見が８割以上。 ④HP更新回数目標（６０回）

年　度　評　価 （ ２月２５日 現在 ）

評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
①アンケート調査で約９割の生徒が理解できると回答 ②ＩＣＴの活用やリモート授業を実施した。 ③概ね目標を達成できた。リモート授業も行った。 ④予定通りの回数、日本語勉強会を実施。	A	小・中学校で不登校だった生徒も、浦和高校定時制に入学してからは、比較的元気に登校できている。しかし、学年が上がるにつれ、慣れや怠けによる遅刻や欠席が増える傾向があるため、教員による恒常的な声掛けと、進路実現を念頭においた、きめ細かい指導をよりいっそう充実させたい。
①９割以上の生徒が「人間関係が良好」と回答。 ②進路決定率は９割以上となった。大学２名含む ③多くの生徒が浦定チャレンジに取り組めた。 ④将来の希望を持っていると９割の生徒が回答。	A	コロナ禍の中でも、外部の教育機関と連携し、生徒のコミュニケーション能力の向上や進路意識を根付かせる行事を予定通り実施することができた。人とのつながりや関りの中で生徒一人一人が成長していく場面や機会を提供していきたい。
①多くの教員が主体的・対話的で深い学びを実施した。 ②１１月に４日間保護者向け公開授業を実施。 ③毎月スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーと連携し、面談や授業見学等を行った。	B	知識構成型ジグソー法による授業では、活発な意見交換が行われ、コミュニケーション能力向上の推進に大いに役立っている。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携をこれからも密にして、困り感のある生徒に寄り添った指導を行いたい。
①第１回の参加者が１２名、第２回目が１１名の参加となった。 ②給食喫食率は９割以上で、満足度は９割となった。 ③多くの方々から肯定的な意見をいただいた。 ④ＨＰは８５回更新した。	A	昨年コロナ禍の影響で実施できなかった保護者会を６月と１１月に実施し、全校生徒の４分の１にあたる参加があった。参加した保護者からは肯定的な意見や感想が述べられた。これからも浦和高校定時制の魅力を数多く発信し、地域に貢献できる学校を目指したい。

学　校　関　係　者　評　価

実 施 日　令和４年３月２２日

学校関係者からの意見・要望・評価等

約９割の生徒が理解できたと回答とあるが、素晴らしい成果であると思う。出来た喜びが継続し、遅刻欠席の数値が改善されることを期待する。小・中学校時代に不登校だった生徒が比較的元気に登校できているとは、喜ばしい。生徒一人一人に応じた授業をするように工夫され、各教科で補助動画を作成する等ＩＣＴの活用もできている。日本語勉強会を年間45回実施するなど、先生方の懸命な努力には頭が下がりますが、学年が進むにつれて遅刻や欠席が増えるのは極めて残念。
9割以上の生徒が「人間関係が良好」と回答、大学進学2名を含む進路の決定率が9割以上、及び､9割の生徒が｢将来の希望を持っている」と回答するなど、これらはこれまでにはなかったことです。今後、浦定チャレンジへの取り組み者の増加、及び、卒業生による進路講演会の早期実現等が望まれます。残りの１割の生徒にどう関わるかを検討してもらいたい。
多くの教員が主体的・対話的な深い学びの授業を実施したのは喜ばしい。できたら、全教員が各学期に1回以上実施ではなくて､毎日の授業の中で、つまり日常的に行われるのが望ましい。それを中学校教員に公開して、定時制の授業への誤解（先入観）を解くことも必要と考える。また、知識構成型ジグゾー法による授業は活発な意見交換実現に有効なので、大いに実施して彼らのコミュニケーション能力を向上させて欲しい。
保護者会への参加者数が第1回、第2回併せて23名で、参加者からは肯定的な意見や感想が述べられたのは、素晴らしい。参加者を増加させるために、例えば、授業参観、給食試食、球技大会への参加などの工夫、及び、保護者からの意見・要望等の聴取等を試行して欲しい。食育への取組は生徒の実態を考えた時に大変有意義なものであると考える。HPの更新回数が目標の60回を上回って85回になったのは素晴らしい。